

令和 7（2025）年度

外国人留学生選抜（経済経営学部 経済経営学科）試験問題

小論文

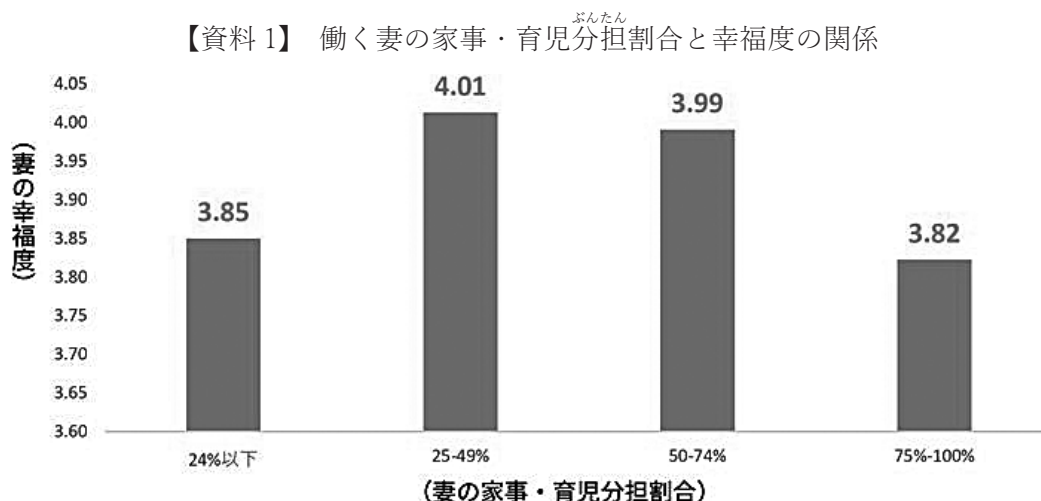
注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で7ページ、解答用紙は全部で2枚あります。
- 5 試験時間は100分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

第1問 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

現在の日本では共働き世帯⁽¹⁾が専業主婦世帯⁽²⁾を上回るようになりました。結婚・出産⁽³⁾後に働き続ける女性も増えています。◎にもかかわらず、日本では家事・育児をするのは「夫ではなく、妻」というA)イメージがいまも強くあり、実際に妻が多くの家事・育児を行なっています。この状況に対して妻たち、特に働く妻たちは満足しているのでしょうか。おそらく、満足していないでしょう。＜中略＞それでは、どのように夫婦間で家事・育児を分担⁽⁴⁾すれば、妻の満足度を高めることができるのでしょうか。＜中略＞そこで、働く妻の満足度（＝妻の幸福度）と夫婦の家事・育児分担⁽⁵⁾の関係について分析します。

資料1は、家事・育児分担割合別に妻の幸福度の平均値を示したものです。分析対象は59歳以下の働く既婚⁽⁵⁾女性であり、夫が働いている場合に限定しています。妻の幸福度には「5＝とても幸せ」から「1＝とても不幸」の5段階になっています。また、資料1の妻の家事・育児分担割合は、1週間における家事・育児時間の合計に占める妻の家事・育児時間分担の割合を示しています。

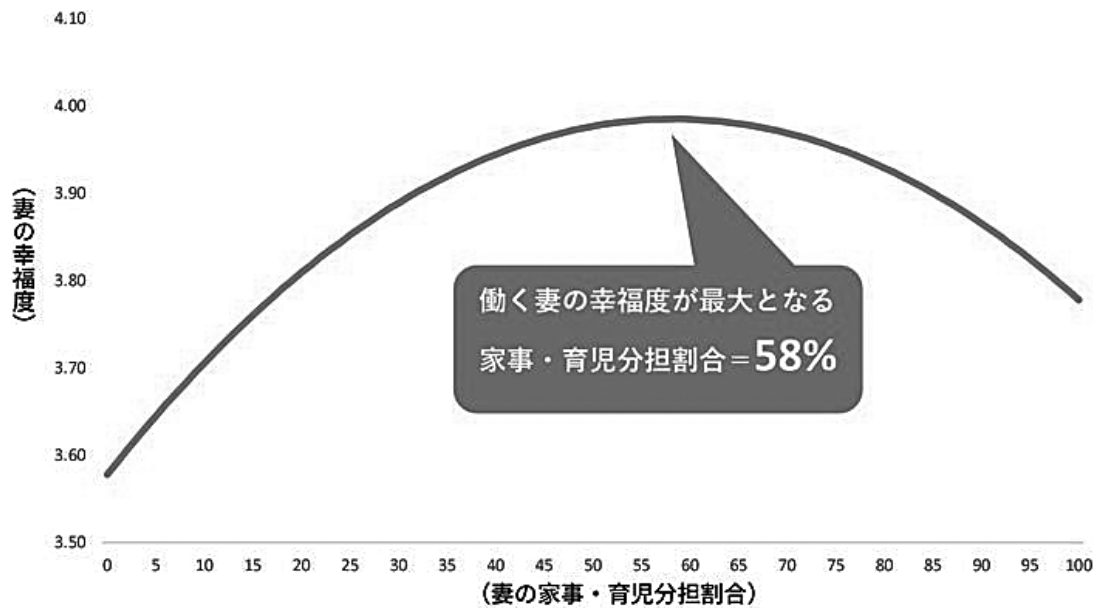


出典：佐藤一磨（2020）『夫婦の家事・育児分担と妻の幸福度の関係：夫婦でどのように家事・育児を分担すると妻が幸せになるのか』PRRC Discussion Paper Series, DP2020-004 を一部修正し掲載

この図は興味深い結果を示しています。それは、「妻の家事・育児分担が少ないほど幸福度が高くなるわけではない」という点です。図中では働く妻の家事・育児分担が25～49%の時に幸福度が最も高くなっています。妻の家事・育児分担割合が24%以下や75%以上の場合だと、幸福度がやや低くなっているのです。この結果から、家事・育児を夫に◎丸投げすれば妻が幸せになるわけではなく、夫婦間で一定割合ずつ負担しあうことが望ましいと考えられます。

さて、ここで次に気になってくるのが、より具体的に妻の家事・育児分担が何%の時に幸福度が最も大きくなるのか、という点です。この点を明らかにするために、統計的な方法を用いてB)シミュレーションを行いました。このシミュレーションでは、夫婦それぞれの年齢、学歴⁽⁶⁾、収入といった個人の違いをC)コントロールしたうえで、妻の家事・育児分担割合と幸福度の関係を表しています。

【資料2】 働く妻の家事・育児^{ぶんたん}分担割合と幸福度のシミュレーション

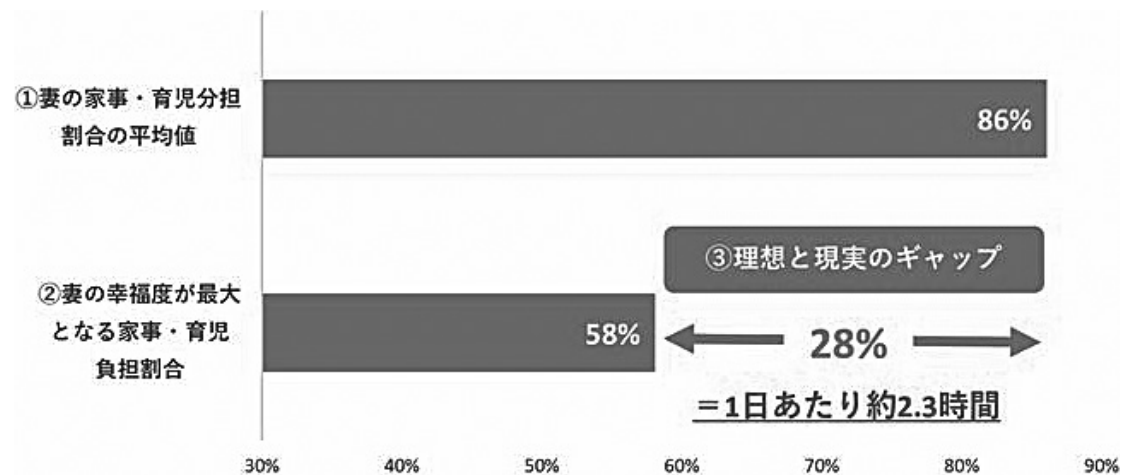


出典：佐藤一磨（2020）『夫婦の家事・育児^{ぶんたん}分担と妻の幸福度の関係：夫婦でどのように家事・育児^{ぶんたん}を分担すると妻が幸せになるのか』PRRC Discussion Paper Series, DP2020-004 を一部修正し掲載

資料2のシミュレーション結果を見ると、働く妻の家事・育児^{ぶんたん}分担割合が「58%」の時に幸福度が最大となっていました。この結果から、「夫婦間でだいたい6対4の割合で家事・育児^{ぶんたん}を分担すると働く妻が最も幸せになる」と言えるでしょう。

シミュレーション結果からわかるとおり、夫婦間で同じくらいの割合で家事・育児^{ぶんたん}を分けると、妻の幸福度は高くなります。夫婦のどちらかが家事・育児^{ぶんたん}をより多く担当するのは、良い状態だと言えます。この点に関して、「夫婦で同じくらいの家事・育児^{ぶんたん}を負担するのは、現実的に難しい」と思う人もいます。そのとおりです。これはいわば、「理想^{りそう}の状態」です。理想^{りそう}と現実には大きなギャップがあります。その点を見てみたのが資料3です。資料3では、①夫婦間の家事・育児^{ぶんたん}負担の「現実」、②シミュレーションによって出した「理想^{りそう}」、そして③「理想^{りそう}」と「現実」のD) ギャップを示しています。

【資料3】 働く妻の家事・育児時間の理想と現実のギャップ



出典：佐藤一磨（2020）『夫婦の家事・育児負担と妻の幸福度の関係：夫婦でどのように家事・育児を分担すると妻が幸せになるのか』PRRC Discussion Paper Series, DP2020-004 を一部修正し掲載

資料3が示すように、日本の家庭では、働いている妻の平均的な家事・育児負担割合は80%を超えています。つまり、家事・育児の大半を妻が行っている状態です。家事・育児負担割合の理想と現実のギャップは約28%であり、時間に直すと、1週間あたり約16.2時間となります。これはだいたい1日あたり2.3時間です。つまり、理想と現実のギャップを埋めるには、「夫の家事・育児時間を1日約2.3時間増やす必要がある」ということとなります。

【出典】佐藤一磨（2022）「家事分担58：42の法則」経済学が導き出した妻の幸福度が最大になる“黄金の比率”『プレジデント オンライン』 <https://president.jp/articles/-/53855?> を一部改変

注

- (1) 共働き世帯・・・夫婦が共に働いている家庭のこと
- (2) 専業主婦世帯・・・専業主婦、会社などで働いていない女性がいる家庭のこと
- (3) 出産・・・子供を産むこと
- (4) 分担・・・分けて担当すること
- (5) 既婚・・・すでに結婚していること
- (6) 学歴・・・個人がこれまで勉強してきた学校や受けてきた教育のこと

問1 本文中にある A) ～ D) のカタカナの意味に近いものを、それぞれ選びなさい。

- A) イメージ () B) シミュレーション ()
C) コントロール () D) ギャップ ()
ア. 模擬実験^{もぎじっけん} イ. 調節^{ちようせつ} ウ. 差^さ エ. 印象^{いんしょう}

問2 「◎にもかかわらず」という文法の使い方として正しいものに○を、正しくないものには×を書きなさい。

- (1) 本日は雨にもかかわらず、たくさんの方にお集りいただき、本当にありがとうございます。
(2) 人気の店だったので、日曜日にもかかわらず、ほぼ満席だった。
(3) 努力したにもかかわらず、合格できた。
(4) 彼は日本語が上手であるにもかかわらず、日本人と話す時はいつも英語を使う。
(5) 財布を落としたにもかかわらず、自転車にぶつけられた。

問3 「◎丸投げすれば」(丸投げする)とは、どういう意味か。例文を1つ作成し、①に書きなさい。
その上で例文の意味を説明するとともに「丸投げする」の意味を②に書きなさい。

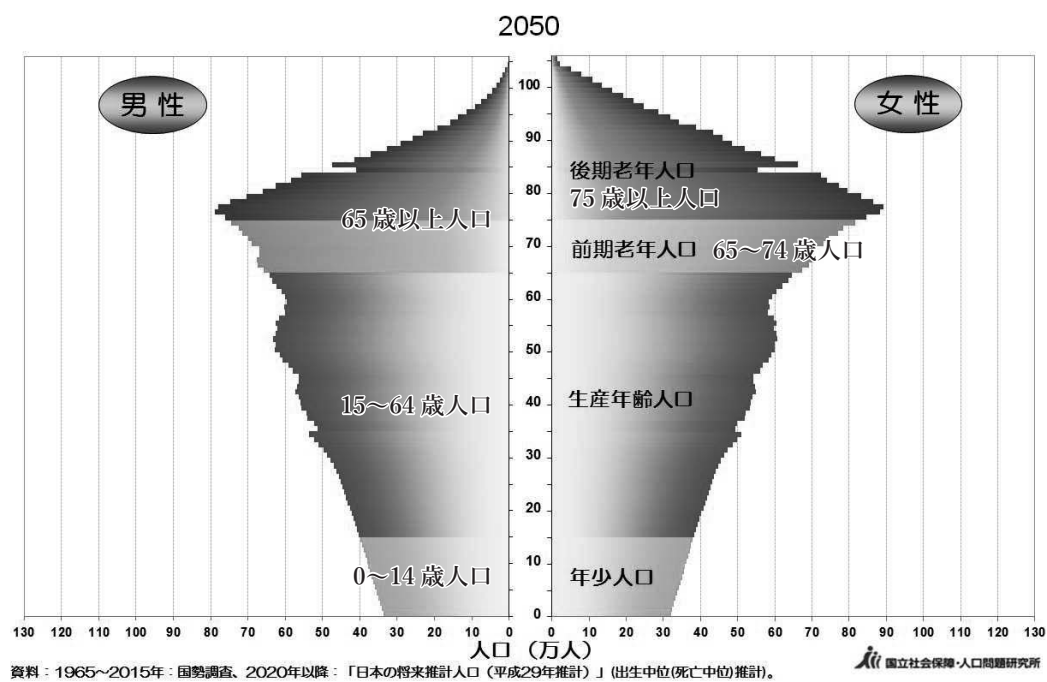
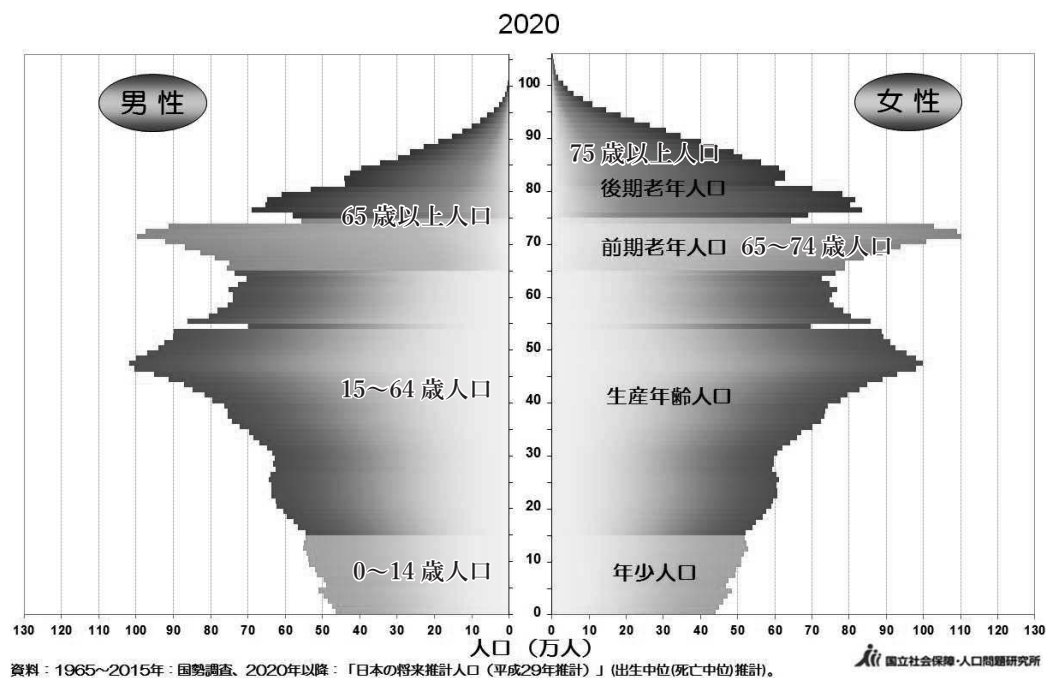
問4 以下の文章について、本文の内容と合っているものは○を、そうではないものには×を書きなさい。

- (1) 理想^{りそう}と現実には1週間あたり2.3時間と大きなギャップがある。
(2) 妻が行う家事・育児が少ないほど幸せだと感じる人が多くなる。
(3) 夫婦の間で夫が60%、妻が40%くらいで家事や育児を分けて行くと妻が最も幸せだと感じる。
(4) 日本の家庭では、働いている妻の平均^{へいきん}的な家事・育児負担^{ふたん}割合は80%を超えている。
(5) 夫婦のどちらかが家事・育児を主に行うのが、日本では良い状態である。

問5 夫婦の間での家事や育児^{ふんたん}の分担について、あなたの考えを200字以上400字以内で書きなさい。

第2問 以下の資料1～3をもとに、以下の設問に答えなさい。

【資料1】日本の2020年の人口ピラミッド（上）・2050年の人口ピラミッド予想（下）



【出典】こくりつしゃかいほしょう じんこうもんだいけんさくじょうしりょう 国立社会保障・人口問題研究所資料「日本の将来推計人口」

(https://www.ipss.go.jp/site-ad/TopPageData/PopPyramid2017_J.html)

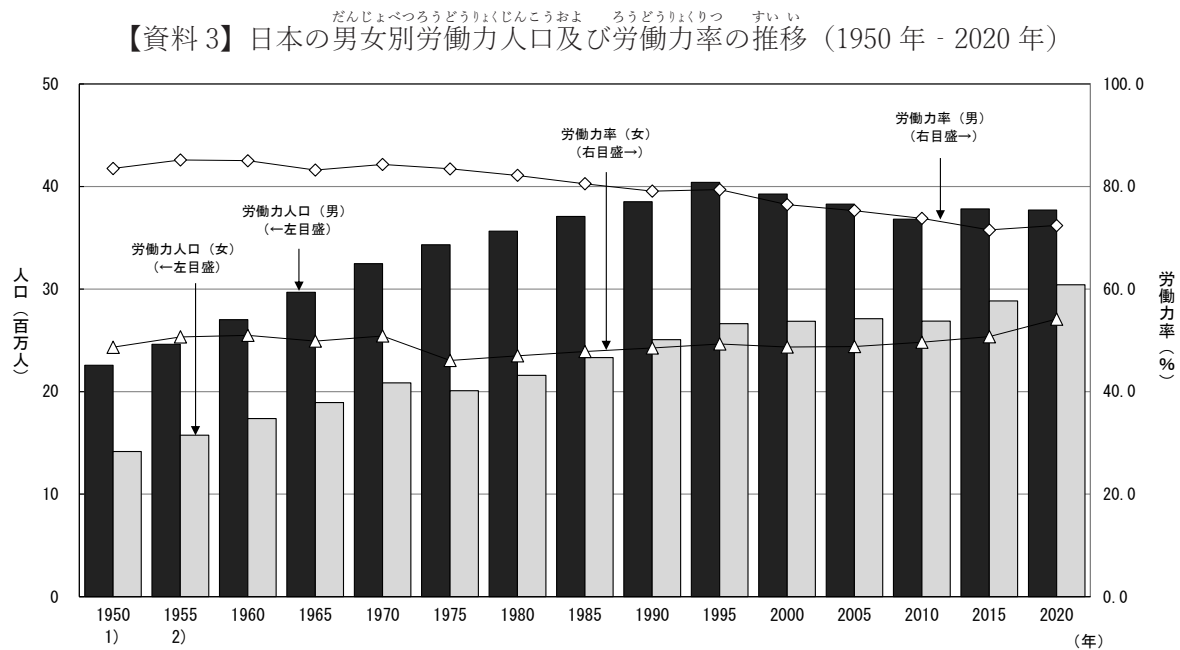
【資料2】 日本における年齢別人口の推移

年次	人 口 (千人)			割 合		
	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
1965	25,529	67,444	6,236	25.73%	67.98%	6.29%
1970	25,153	72,119	7,393	24.03%	68.90%	7.06%
1975	27,221	75,807	8,865	24.33%	67.75%	7.92%
1980	27,507	78,835	10,647	23.51%	67.39%	9.10%
1985	26,033	82,506	12,468	21.51%	68.18%	10.30%
1990	22,486	85,904	14,895	18.24%	69.68%	12.08%
1995	20,014	87,165	18,261	15.96%	69.49%	14.56%
2000	18,472	86,220	22,005	14.58%	68.05%	17.37%
2005	17,521	84,092	25,672	13.77%	66.07%	20.17%
2010	16,803	81,032	29,246	13.22%	63.76%	23.01%
2015	15,950	77,354	33,790	12.55%	60.86%	26.59%
2020	15,032	75,088	36,027	11.92%	59.52%	28.56%
2025	13,216	73,051	36,011	10.81%	59.74%	29.45%
2030	11,457	70,673	36,064	9.69%	59.79%	30.51%
2035	10,150	67,113	36,571	8.92%	58.96%	32.13%
2040	9,668	61,613	37,940	8.85%	56.41%	34.74%
2045	9,179	57,257	38,002	8.79%	54.82%	36.39%
2050	8,535	53,681	37,366	8.57%	53.91%	37.52%
2055	7,746	50,648	36,188	8.19%	53.55%	38.26%
2060	6,908	47,656	34,741	7.74%	53.36%	38.90%
2065	6,189	44,259	33,355	7.39%	52.81%	39.80%

【出典】 2020 年までは、総務省統計局『令和 2 年国勢調査』による現在人口、1970 年以前は沖縄県を含まない (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/01-02-01.pdf>)

2020 年以降の値は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」による予測値 (https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp2023_ReportALLc.pdf)

【資料3】 日本の男女別労働力人口及び労働力率の推移 (1950 年 - 2020 年)



注) 2015年及び2020年の実数及び労働力率は不詳補完値による。なお、2010年以前の労働力率は分母から労働力状態「不詳」の者を除いて算出

1) 沖縄県の本土籍の日本人及び外国人を除く14歳以上人口

2) 沖縄県については、標本抽出集計結果による14歳以上

【出典】 総務省統計局『令和 2 年国勢調査』

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/01-02-02.pdf>)

現在、日本社会が抱える問題の一つとして、「少子化」「高齢化」といった人口にかかわる問題がある。そこで、資料 1～3 をもとに、以下 5 つの定義をふまえて、設問に答えなさい。

- (1) 高齢者とは 65 歳以上の人を指す。
- (2) 高齢者が総人口の 7% を超えた社会を高齢化社会と呼び、さらに 14% を超えると高齢社会、21% を超えると超高齢社会と呼ぶ。
- (3) 総人口を年齢により、0～14 歳、15～64 歳、65 歳以上の 3 つに区分する。
- (4) 0～14 歳を年少人口、15～64 歳を生産年齢人口、65 歳以上を老年人口と言い、また 0～14 歳と 65 歳以上を合わせて従属人口と呼ぶ。
- (5) 労働力率は、15 歳以上人口（労働力状態「不詳」を除く）に占める労働力人口の割合を示す指標である。

$$\text{労働力率 (\%)} = \frac{\text{労働力人口}}{\text{15 歳以上人口 (労働力状態「不詳」を除く)}} \times 100、\text{と計算する。}$$

問 1 資料 1～3 から分かることとして、正しいものに○、正しくないものに×をつけなさい。

- 1) 2015 年から 2065 年まで、日本の総人口は右肩下がり傾向である。
- 2) 日本の年少人口と老年人口の関係は、2000 年以降逆転している。
- 3) 2025 年と比べ、2020 年の日本の年少人口は少ない。
- 4) 日本の労働力人口は、男女に関わらず、2020 年までずっと増加している。
- 5) 男性の労働力率は、1995 年以後ずっと 40% 以下の状態となっている。

問 2 資料 1～3 から、1) 具体的に時期や数字をあげて、日本の少子高齢化についてどのようなことがわかるかを指摘したうえで、2) 少子高齢化が日本社会に与える影響について、あなたの考えを 200 字以上 400 字以内で述べなさい。